FANBOXまとめvol.5

「さぁ、お兄サン♥
週に一度のオチ○チンチェックの
時間デスよ♥」
ニコ♥
ニコ♥

「この一週間、オチ○チンは
何回洗いマシタか？」
「全然？一度も？
フフ♥いつも通りデスね♥」
びくっ
びくっ

「では、この可愛らしい皮かむりのオチ○チンを剥いて中を見ちゃいマスね♥」
そっ…
「せーの♥」

「えいっ♥」
むきっ♥

「わぁ…♥
これは強烈デスね…♥」
「恥垢がこんなに…
ニオイもすごいデス…♥」
ぽっ♥
むわぁ〜〜…

「フフ♥お兄サンのオチンチン
今回もお掃除のしがいがありマスね♥」
「腕が鳴ってしまいマス♥」

「それじゃあ早速、この洗浄液で
濡れ濡れになった綿棒を使って」
スッ…
「お掃除していきますね♥」

「ちょっと冷たいかもしれませんケド、
我慢デスよ～♥」
ぴちゃ…
ビクッ

「はーい…いい子いい子…
じっとしててくだサイねぇ…」
「シー…恥垢が取れたら…
シワの所も念入りに…ごしごし…
くちゅくちゅ…」
ビク
ちゅ♥
くちゅ♥
ちゅく♥
ぬちゅっ♥
ビク
ビク

「フフ♥キレイになってキマシた♥」
「お兄サン、動かずにちゃんと
我慢できてえらいデスね♥」
ビクッ
ちゅこ♥
ちゅこっ♥
ちゅこっ♥
ビク
ビク

「さぁ、最後は裏筋デス♥
ここは特に念入りにお掃除シマスね♥」
くちゅっ♥
ビクン

「我慢デスよお兄サン、
じっとしててくだサイね～」
「もう少しで終わりマスよ～
がんばれ～がんばれ～♥」
ちゅ♥
くちゅ♥
ぬちゅっ♥
ちゅく♥
ビク
ビク
ビクビク

「はい♥終わりマシタ♥
お疲れ様デスお兄サン♥」
「オチ○チンとってもキレイに
なりマシタよ♥」

「フフ♥オチ◯チンがちがちデスね♥
すごく固いです♥」
「お掃除の間、我慢するの
とてもつらかったと思いマス♥」
ビンッ
ビンッ
ビンッ
ビンッ

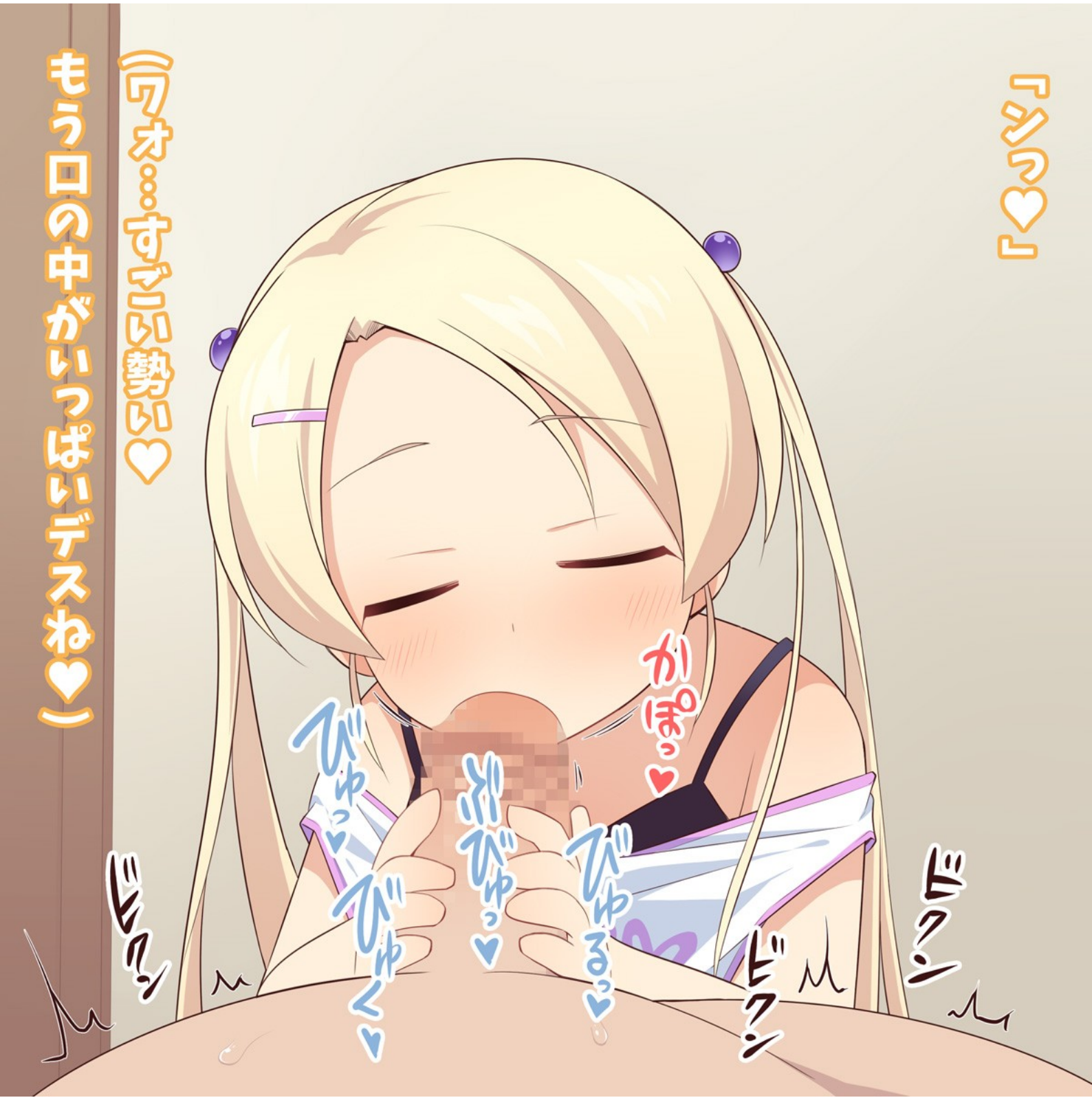
「がんばったオチ○チンには…」
「ご褒美をあげないとイケマセンね♥」

「えいっ♥」
ぴゅ♥
ビクッ

「ほーら♥お兄サンの大好きな
ペロペロタイムデスよ♥」
「今度は我慢シナイで好きなだけ
気持ち良くなってクダサイ♥」

「アレ？もしかしてもう
イッチャいそうデスか？」
「アー、そんなに我慢してたんデスね」

「いいデスよ♥じゃあいっぱい
ぺろぺろシマスね♥」
「気にせず出してクダサイ♥
気持ち良くぴゅっぴゅシマショ♥」
れろ♥
れろ♥
れろ♥
れろ♥
れろ♥


「シっ♥」
（ワオ…すごい勢い♥
もう口の中がいっぱいデスね♥）
かぽっ♥
びゅるっ♥
ぶびゅっ♥
びゅっ♥
びゅく♥
ビクン
ビクン
ビクン

（フフ♥まだ出てマス♥
お兄サンとっても気持ち良さそうな
顔をしてマスね♥）
（最後までしっかりと出し切って
いただきマショウ♥）
びゅっ♥
びゅっ♥
ビクッ
ビクッ

（……終わったみたいデスね♥
お疲れ様デスお兄サン♥）
ツゥ…

「ほら、見えますか？
お口の中がお兄サンの精子で
いっぱいです♥」
あ～♥
「気持ち良かった証拠デスね♥
嬉しいデス♥」

「あむっ♥」
んむ…
コク♥
コクン♥

「はい♥これでお口の中も
オチ○チンもキレイキレイに
なりマシタ♥」
んあっ♥

「それじゃあお兄サン♥
また一週間後にチェックしマスね♥」
「楽しみにしてマス♥」
おわり

ニコ♥
ニコ♥

びくっ
びくっ

んっ…

む
き
っ

むわぁ〜〜…
ぽっ♡

スッ…

ぴちゃ…
ビクッ

ちゅ♥
くちゅ♥
ぬちゅっ♥
ちゅく♥
ビク
ビク
ビク

ちゅこ♥
ちゅこっ♥
ちゅこっ♥
ビク
ビク
ビク

ビクン
くちゅっ♥

ちゅ♥
くちゅ♥
ぬちゃっ♥
ちゅく♥
ビク
ビク
ビク

ビンッ
ビンッ
ビンッ

ビクッ

ぺろ♥
ぺろ♥
ぺろ♥

れろ♥
れろ♥
れろ♥
れろ♥
れろ♥

かぽっ♥
びゅるっ♥
ぶびゅっ♥
びゅっ♥
びゅく♥
ビクン
ビクン
ビクン

びゅっ♥
びゅっ♥
ドク
ドク

ツゥ！？

あ～♡

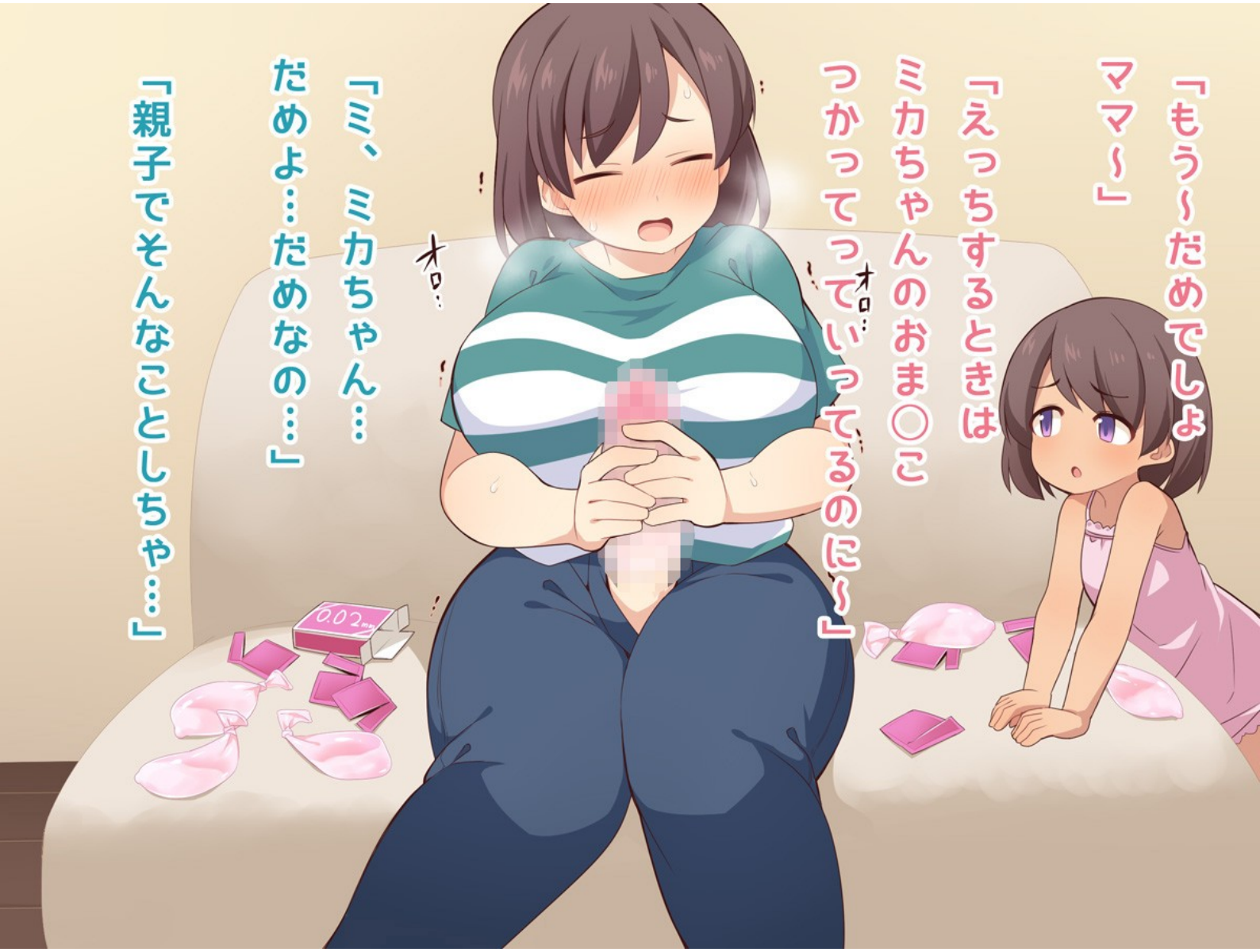
んむ♡
コク♡
コクン♡

んあっ♥

「はぁ…はぁ…♥」
「こ、これで最後…♥
これで最後にしないと…♥」
「もうすぐあの子が
帰ってきちゃう…♥」
「あの子に見つかったら…
また…あっ…♥」
シコ♥
シコ♥
シコ♥
シコ♥
シコ♥
0.02mm

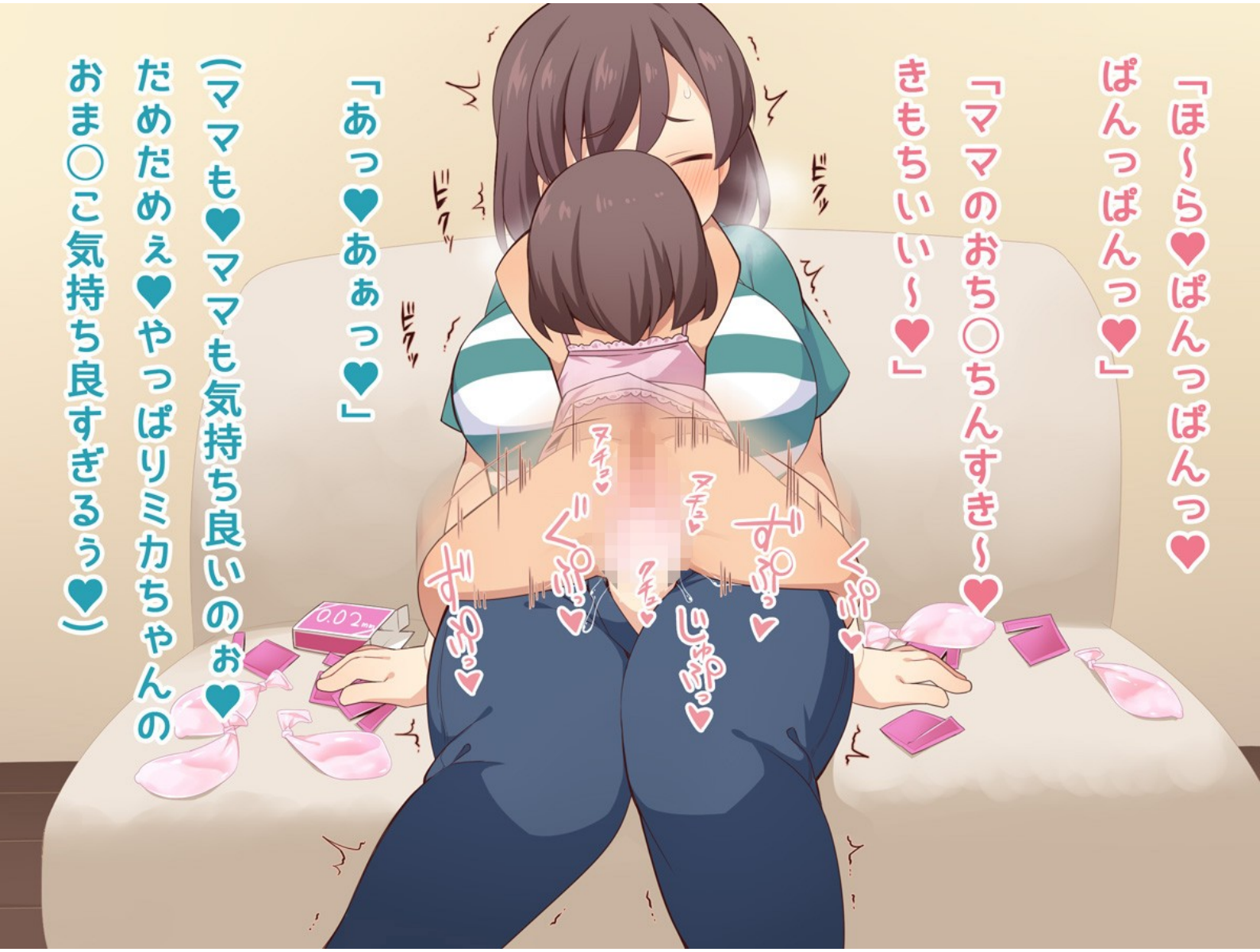
「だ、だめ…♥あの子のこと
考えながらシコシコしちゃ…♥」
「母親なのに…♥
娘をオカズにするなんて…♥」
「早く…早く出して
スッキリしないと…♥」
「ただいまーっ♪」
シコ♥
シコ♥
シコ♥
シコ♥
シコ♥
0.02mm

「あーっ！
ママってば
おなにーしてるーっ！」
「あっ！
ミ、ミカちゃんっ！」
ビク
「ち、ちがうの…これは…っ！」


「もう～ためでしょママ～」
「えっちするときはミカちゃんのおま○こつかってっていってるのに～」
「ミ、ミカちゃん…だめよ…だめなの…」
「親子でそんなことしちゃ…」
オロ…
オロ…
0.02mm

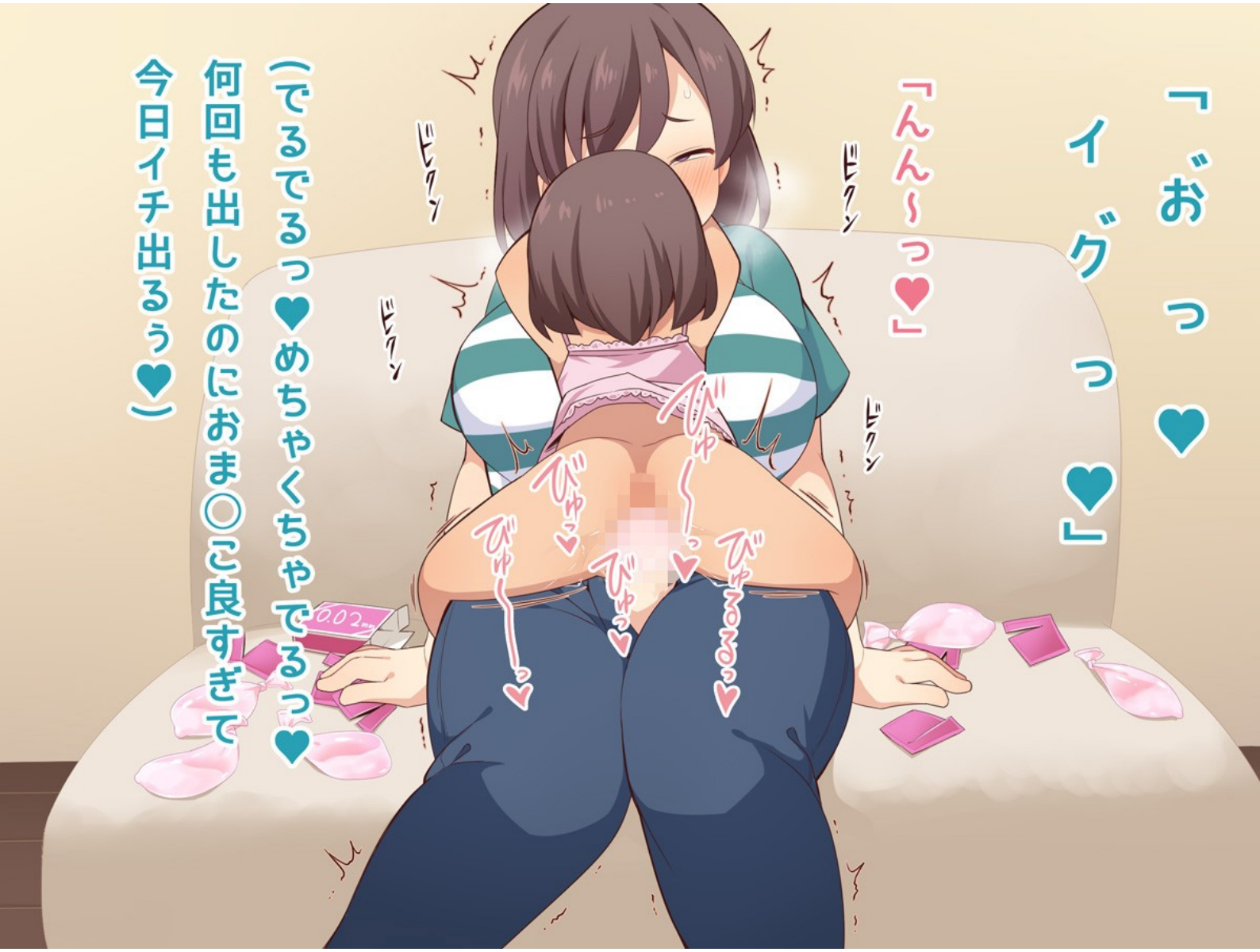
「だ～め♥」
「ママのおち○ちん
ミカちゃんのおま○こに
いれちゃいま～す♥」
「あぁ…だめぇ…
ゆるしてぇ…」
ビク
ビク
マチュ♥
クチュ♥
クチュ♥
0.02mm

「は～い♥
はいっちゃいました～♥」
「あぁ～♥いやぁ～♥」
（入っちゃったぁ♥
娘ま○こにおち○ちん
飲まれちゃったぁ♥）


「ほ～ら♥ぱんっぱんっ♥
ぱんっぱんっ♥」
「ママのおち○ちんすき～♥
きもちいい～♥」
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ヌチュ
ヌチュ
ヌチュ
ぐぷっ♥
ぐぷっ♥
ぐぷっ♥
ぐぷっ♥
「あっ♥あぁっ♥」
（ママも♥ママも気持ち良いのぉ♥
だめだめぇ♥やっぱりミカちゃんの
おま○こ気持ち良すぎるぅ♥）
0.02mm

（こんな小さい体なのに
ママのおち○ちん簡単に
飲み込めちゃうし♥）
（腰使いもどんどん上手くなるし♥）
（なによりおち○ちんの最高に
気持ち良い所を的確に刺激してくる♥）
（なんでこんなに可愛くてエッチで
相性抜群なのぉ♥）
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ずぷっ♥
じゅぷっ♥
ずぷんっ♥
じゅぷっ♥

（あっ♥やばっ♥
精液のぼってきた♥
娘ま○こで射精しちゃう♥
搾り取られちゃう♥）
フゥー♥
フゥー♥
フー♥
「ミ、ミカちゃ…もう…おっ…♥」
「んっ♥いいよ♥イッて♥
ミカもイクから♥一緒に♥」
ずぷっ♥
じゅぷっ♥
ずぷんっ♥
じゅぷっ♥
グチュ♥
グチュ♥
ヌチュ♥
ズチュ♥


「〝おっ♥
イグっ♥」
「んん〜っ♥」
ビクン
ビクン
ビクン
びゅ〜〜っ♥
びゅっ♥
びゅっ♥
びゅ〜〜っ♥
0.02mm
（でるでるっ♥めちゃくちゃでるっ♥
何回も出したのにおま○こ良すぎて
今日イチ出るぅ♥）

「はぁ…はぁ…♥」
「んふふ～♥
いっぱいおしゃせいできたね
マ～マ♥」
フッ♥
フッ♥
フッ♥
0.02mm
ガク
ガク

「んっ♥」
「おうんっ♥」
（へ、部屋汚さないようにゴムしててよかったぁ～…こんなの中に出してたら絶対孕ませちゃう…♥）
ビクッ
ずるんっ♥
0.02mm

「えへへ～♥
ママのおち○ちんとってもきもちよかった～♥」
「ママは～？」
「え…？
え、えぇっと…」
ハァ…
ハァ…
スリ♥
スリ♥
ビク
ビク
0.02mm

（どうしよう…正直めちゃくちゃ気持ち良かったけど…）
（母親としてこんなことはもうやめにしないといけないし…）
スリ…♡
（でもこんなに相性抜群のおま○こを積極的に使わせてくれるミカちゃん可愛くてエッチで大好きだし…）
（あぁ～もう～っ）

「マ、ママも…
気持ち良かったわ…」
「えへへ～♥」
（うぅ…次こそはやめにしないと…）
0.02mm
おわり

0.02mm

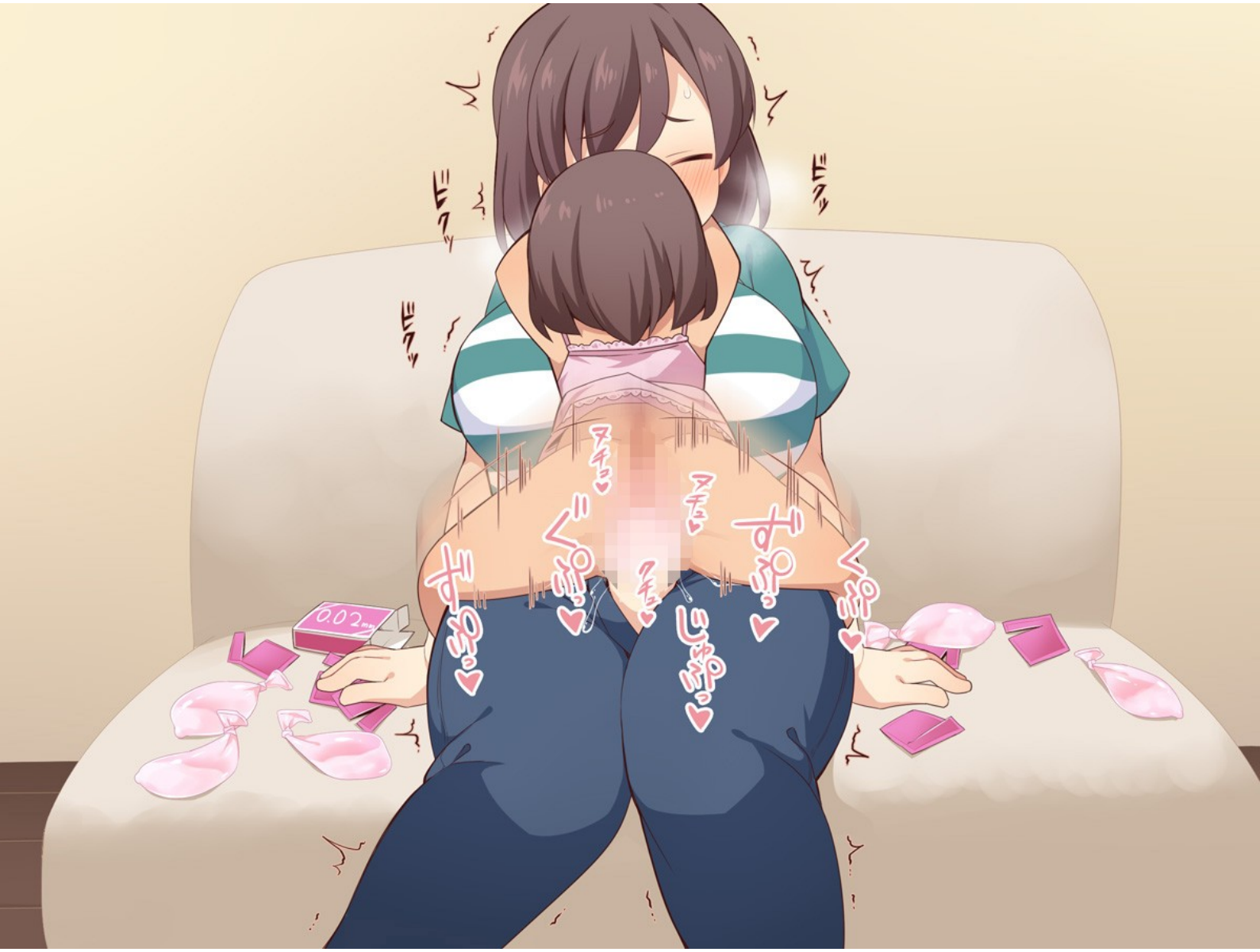
シコ♥
シコ♥
シコ♥
シコ♥
シコ♥
0.02mm

ビク
0.02mm

オロ
オロ
0.02mm

ビク
ビク
ヌチュ♥
クチュ♥
クチュ♥
0.02mm

0.02mm


ビクッ
ビクッ
ビクッ
ヌチュ♥
ヌチュ♥
ヌチュ♥
ぐぷっ♥
ぐぷっ♥
ぐぷっ♥
じゅぷっ♥
0.02mm

ビクッ
ビクッ
ビクッ
ずぷっ♥
ズチュ♥
じゅぷっ♥
グチュ♥
ヌチュ♥
ずぷんっ♥
グチュ♥
ヌチュ♥
じゅぷっ♥
0.02mm

フゥー♥
フゥー♥
フー♥
ズチュ♥
ずぷっ♥
グチュ♥
じゅぷっ♥
グチュ♥
ずぷんっ♥
ヌチュ♥
じゅぷっ♥
0.02mm

ビクン
ビクン
ビクン
ビクン
びゅ～～っ♥
びゅるるるっ♥
びゅっ♥
びゅっ♥
びゅ～～っ♥
0.02mm

フッ♥
フッ♥
フッ♥
0.02mm
ガク
ガク

ビクッ
ずるんっ♡
0.02mm

ハァ…
ハァ…
スリ♥
スリ♥
0.02mm
ビク
ビク

0.02mm
スリ…♡

0.02mm

0.02mm

0.02mm

0.02mm

0.02mm

0.02mm

0.02mm

0.02mm

0.02mm

0.02mm

0.02mm

0.02mm

0.02mm

0.02mm

0.02mm

0.02mm

その昔、家を踏み潰せるほどの巨大な鬼娘が
酒や食料を強奪するために暴れまわっては
村人たちを苦しめていた。
それを見かねたある剣豪がこれを退治し、
近くの洞窟に封印したのだった。
スゥー…
スゥー…
封

当然、恐ろしい鬼のいる洞窟など
誰も近寄ろうとはしなかった。
しかし村の童たちだけは違ったのだった。
ガッ…
ガッ…

（また来たのか…この童は…
まったく…最初こそ怯えとったが…
儂が動けず声も出せぬと知ってからはこの有り様じゃ…
よう飽きもせずチ〇ポを乳に押し付けに来よる…）
もに…
もに…
グッ…
グッ…

（む…連れもおったか…こやつもまったく…
出もせん乳を吸って何が面白いのやら…）
ちゅぱっ
ハア…
ハア…
もに…
もに…
グッ…
グッ…
封
封
封
封

（ふん…果ておったか…）
（毎度こうして乳を相手に子種を吐き出しおる…
何になるのやら…よう分からんやつらじゃ…）
ビク
びゅっ
ぶびゅっ
封

（そうして事が済むとすぐいなくなる…
だが…どうせすぐ別の童どもが来るだろう…）
（いつもの事だ…）
ポタ…
ポタ…
どろ…
封
封
封
封

（ほれみたことか…）
（こいつらも儂の乳が目当てじゃ…
ただ…さっきのやつらと違ってやたらと
チ〇ポをどこかに挟みたがる…
そうしてしばらく腰を動かしたあと…）
ぬぷっ
ぬぷぷっ
ズリっ
ズリっ
封
封
封
封

（果てる…）
（まったく…情けない声をあげて
精を吐き出しておるわ…）
どぴっ
びゅっ
どぴっ
びゅっ
どぴっ
びゅっ
封
封
封
封

（ここに来る童たちは皆、乳を好いとる…
いや…皆ではないか…）
どろ…
どろ…

（こやつなんかは…儂の腹にチ〇ポを
押し付けてきよる…
腹肉がどうだの腹筋がどうだの言いながら必死に
擦りつけてくるんじゃ…）

（そうやって腹を相手に
交尾の真似事をしながら果てておる…
まっこと…よう分からんのう…）
封
封
封
封
封
びゅっ
びゅっ
どぴゅ

（ふん…どいつもこいつも…
子種だけは立派に濃ゆいのを出しおって…）
ぬちゃ…

スゥ――…
（しかしまあ…
あやつらが来るようになってほんの少しだが
退屈が紛れるようになった…それは悪く思わん…）
（ただ…）

（後始末くらいしていかんかバカタレ共が…）
（村の連中にバレても知らんぞ…まったく…）
終

スゥー…
スゥー…

もに。
もに。
グッ…
グッ!

ちぷぽっ
ちぷぽっ
ハァ…ハァ…
もに…
もに…
グッ…
グッ…

ビク
ビク
びゃっ
ぶびびっ
ビク
ビク
びゃっ
びゃるっ

ポタ…
ポタ…
どろ…

ぬぷっ
ぬぷぷっ
ズリ
ズリ

びゅっ
どぴっ
びゅっ
びゅっ
封
封
封
封

どぐ…
どぐ…

封
封
封

封
封
封
封
封
ぬちゃ…

スゥ

「ほらほらお兄ちゃん♥
おっぱいだよ♥おっぱい♥」
「お兄ちゃんおっぱい好きでしょ♥
特にパイズリなんか大好きだよねぇ♥」
ボヨんっ♥

「そのパ・イ・ズ・リ♥を
今からしてあげるからさ
ちょっとお金くんない？」
「実は欲しいモノあるんだけど
お小遣い足りなくてぇ」
ゆさっ♥
ゆさっ♥

「ねぇねぇおねが～い♥
ほら～♥なまちちだよお♥」
ぷるん♥
ぷるん♥

「また大きくなったんだよぉ♥
どんどんお兄ちゃん好みのデカパイに
育ってるの♥」
ニヤ
「このおっきいおっぱいでおち○ちん
挟んでぇ～♥いっぱいシコシコして
気持ち良くしてあげるからぁ～♥ね？」

「あはっ♥勃起してきた♥
パイズリされてるとこ想像して
興奮しちゃった？」
「やる気まんまんじゃん♥」
むくっ…
むくっ…

「これってオッケーってことだよね♥
交渉成立しちゃったよね♥」
「じゃあ早速おち○ちん出しちゃおっと♥」

「わっ♥すっごい♥
ばつきばき♥」
「もうフル勃起じゃん♥」
ぼろんっ
ビキ
ビキ

「じゃあじゃあ♥今からおち○ちん
挟んじゃうけどいいよね♥いいでしょ♥
パイズリしちゃうね♥」
ニヤ～♥

「え～？ちょっと待ってって何～？
おち○ちんこんなことになってるのに
いまさらやめちゃうの？」
「そりゃお兄ちゃんが本気でやめたいなら
私も無理にとは言わないしあきらめるけどお…」
ビクン
ビクン

「あはっ♥やっぱしてほしい？そうだよねぇ♥
おっぱいもパイズリも大好きなお兄ちゃんが
やめたいわけがないよねぇ♥」
「わかってたよお♥妹だもん♥」

「はぁ～い♥それじゃあ
おち○ちん挟みまぁ～す♥」
むにゅん♥
ドク

「ふふ～ん♥どおどお？
気持ち良い？気持ちいいよねぇ♥
大好きなパイズリだもんねぇ♥」
「おち○ちんが喜んで
ビクビクってしてるのおっぱい越しに
伝わってきてるよぉ♥」
たぽっ♥
たぽっ♥
たぽっ♥
ビク
ビク

「あ～あ♥
だらしない顔しちゃって♥
でもすっごい幸せそう♥」
「…あれあれぇ？
もしかしてお兄ちゃん
もうイキそうになってる？」
たぽっ♥
たぽっ♥
たぽっ♥
たぽっ♥
ビク
ビク

「せっかくお金払うのにそんなすぐイッちゃったらもったいないよぉ？もうちょっと楽しも？」
「なぁに？気持ち良すぎて我慢むり？ふぅん♥そっか♥」
たぽっ♥
たぽっ♥
たぽっ♥
たぽっ♥
ビク
ビク

「じゃあまったりパイズリはやめて
本気ズリで即イキさせてあげる♥」
「めちゃくちゃ気持ち良い射精
させてあげるからね♥」
ズリ♥
ズリュ♥
ズリッ♥
ズリッ♥
ズリッ♥
ズリッ♥
ビクンッ
ビクンッ

「ほーら腰が浮いてきた♥
精液のぼってきてるんだねぇ♥
いいよお♥そのまま出して♥」
「おっぱいの中で好きなだけ
出していいんだよお♥ほらほら♥
ほーら♥出しちゃえ♥」
ズリュ♥
ズリュ♥
ズリュ♥
ズリュ♥
ズリュ♥
ガク
ガク
ガク

「あはっ♥出た出た♥すっごい♥」
びゅっ♥
びゅっ♥
びゅっ♥
ビクンッ

「はーい♥ぴゅっぴゅっ♥
びゅるびゅる～♥」
「どぴゅ♥どぴゅ♥
どぴゅ～♥」
びゅっ♥
びゅくっ♥
びゅっ♥
ビクン
ビクン

「最後までしっかり出し切ろうねぇ♥
ほらぴゅっぴゅ～♥」
どくっ。
どくっ。

「すご～い♥めっちゃ大量～♥
精液ってこんなに出るもんなんだねぇ♥」
どぴゅ…

「ほらわかる？おっぱいの中ぐっちょぐちょ♥
孕ませる気まんまんのガチ種付けされちゃった♥」
「ほんとお兄ちゃんっておっぱい好きなんだねぇ♥」
ニヤ♥
ニヤ♥
ぬちゃ♥
ぬちゃ♥
ぐっちゃ♥

「じゃあパイズリしてあげたからあとでお金ちょうだいね♥」
「約束は守ってよ？よろしくねお兄ちゃん♥」
おわり

ぽよんっ♪

ゆさっ♡
ゆさっ♡

ぷるっ♡
ぷにぷに♡
ぷにぷに♡

ニヤ
ニヤ

むぐっ…
むぐっ…

ぼろんっ
ビキ
ビキ

ニヤ～♥

ビクン
ビクン

むにゅん♥
ドク

たぽっ♥
たぽっ♥
たぽっ♥
たぽっ♥
ビク
ビク

たぽっ♥
たぽっ♥
たぽっ♥
たぽっ♥
ビク
ビク

たぽっ♥
たぽっ♥
たぽっ♥
たぽっ♥
ビク
ビク

ズリ♥
ズリ♥
ズリ♥
ズリ♥
ズリ♥
ズリ♥
ズリ♥
ズリ♥
ビクンッ
ビクンッ

ズリ♥
ズリ♥
ズリ♥

びゅっ♡
びゅっ♡
びゅっ♡
びゅっ♡
ビクビク

びゅっ♥
びゅくっ♥
びゅっ♥
びゅっ♥
ビクン
ビクン
ビクン

どくっ
どくっ

ぬるぬる

ニャ♥
ニャ♥
ぬちゃ♥
ぬちゃ♥
くちゅ♥